

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月14日

【四半期会計期間】 第85期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 日本ケミファ株式会社

【英訳名】 NIPPON CHEMIPHAR CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山 口 一 城

【本店の所在の場所】 東京都千代田区岩本町二丁目2番3号

【電話番号】 東京(03)3863 - 1211大代表

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 安 本 昌 秀

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区岩本町二丁目2番3号

【電話番号】 東京(03)3863 - 1211大代表

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 安 本 昌 秀

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第84期 第2四半期 連結累計期間	第85期 第2四半期 連結累計期間	第84期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	17,428	17,515	35,602
経常利益 (百万円)	1,312	1,147	2,945
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	878	822	1,961
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	824	760	1,404
純資産額 (百万円)	15,758	16,407	16,041
総資産額 (百万円)	41,925	43,530	43,644
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	222.57	210.37	499.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	222.40	210.33	498.82
自己資本比率 (%)	36.8	37.7	36.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	193	1,113	2,450
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	267	1,392	151
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	224	171	935
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	5,942	6,956	7,135

回次	第84期 第2四半期 連結会計期間	第85期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	118.29	92.00

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 平成28年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第84期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
- 4 第84期第2四半期連結会計期間において、日本薬品工業株式会社が新たに設立したNippon Chemiphar Vietnam Joint Venture Co., Ltd.を連結の範囲に含めております。なお、同社は第84期第3四半期連結会計期間における持分の追加取得による完全子会社化に伴い、Nippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd.に社名変更しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和を背景に雇用情勢が改善に向かい、個人消費は底堅い動きとなるなど、緩やかな回復基調にあります。一方、企業業績判断には慎重さが見られ、設備投資持ち直しの動きも足踏み状態となっています。また、依然として米国の金融政策正常化や中国をはじめとする新興国の景気下振れリスク、英国のEU離脱問題が国内経済・金融環境に与える影響が懸念され、先行きは不透明な状況が続いております。

当社が注力するジェネリック医薬品業界においては、平成27年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2015」で、ジェネリック医薬品の新たな数量シェア目標として「2017年（平成29年）末に70%以上とする」とともに、2018年度（平成30年度）から2020年度（平成32年度）末までの間のなるべく早い時期に80%以上とすることが示されています。本年度は診療報酬の改定年であり、数量シェア目標に対応する国のジェネリック医薬品促進策は当初予想した効果は出ていないものの、薬価引き下げの影響を補い、当第2四半期連結累計期間においても市場の拡大は継続しております。

このような環境下で、当社グループは引き続き「信頼できるジェネリック医薬品」の普及に貢献するべく、ジェネリック医薬品の高品質維持と安定供給確保、並びに生産性及び効率性の向上を一層推し進めてまいりました。

加えて、この足元の第一優先であるジェネリック医薬品事業に続くミッションとして取り組む新薬開発についても、複数の開発品目において開発ステージを進めることができました。当社グループはまだ十分な治療薬がない病気に苦しむ患者さんのために、画期的な自社創薬の開発にも取り組んでいます。

なお、このたび当社は資本効率及び株主還元の更なる向上を図るため、自己株式取得を行うことといたしました。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」を参照ください。

セグメントの業績は次のとおりです。

医薬品事業

1) 医療用医薬品

(a) ジェネリック医薬品

医療用医薬品事業のうち、ジェネリック医薬品につきましては、当第2四半期連結累計期間において前立腺がん治療剤である「ピカルタミドOD錠」など3成分3品目を発売いたしました。

販売面では国のジェネリック医薬品使用促進策を背景に、前年度ほどの勢いはないものの、薬局での使用増加や大学病院をはじめとする基幹病院（DPC病院）での新規採用を中心とした需要の拡大が続いています。また、本年度新たに盛り込まれた、外来後発医薬品使用体制加算や一般名処方加算の見直しなどの使用促進策の効果により、これまでジェネリック医薬品の使用に積極的でなかった医療機関においてもジェネリック医薬品を採用する動きが徐々に表れつつあります。当社としては、こうした新たに需要が見込める医療機関へもMRによる活動や研究会を通じて積極的に情報提供を行うなどして対応を進めております。一方で同業他社向けの販売である導出売上については、市場競争の厳しさなどから当第2四半期連結累計期間は思うように受注が伸びておりません。

また、抗がん剤ジェネリック医薬品につきましては、大学病院をはじめとするがん診療連携拠点病院を中心に質の高い情報提供を行うことで採用の拡大に努めました。

(b) 主力品

主力品のうちアルカリ化療法剤「ウラリット-U 配合散・配合錠」につきましては、酸塩基平衡の改善の重要性に関する啓発活動を進めるうえで診療科別戦略を実施し、腎臓内科、泌尿器科、代謝系内科を中心とした専門医から得られたアルカリ化剤投与の重要性を示すデータを活用するなど、普及活動を継続しています。しかしながら主力品全般にジェネリック医薬品や競合品への置き換えが進んでいることに加え、本年度は薬価基準改定の影響もあることから売上高は前年同期を下回る結果となりました。

(c) 海外販売

海外での販売につきましては、現在、前期に香港において販売承認を取得した抗血小板剤「シロスタゾール錠」を含め、韓国、タイなど3か国で6品目の承認を取得し、現地パートナーを通じ販売を行っています。また、これらのほかにASEANなどで5品目を承認申請中です。

以上の結果、ジェネリック医薬品の売上高は前年同期比1.8%の増収となりましたが、ウラリットをはじめとする主力3品目の売上高は22.5%の減収となり、医療用医薬品全体では0.6%の減収となりました。

なお、医療用医薬品の売上高比率を薬効別にみますと、循環器官用薬及び呼吸器官用薬31.4%、消化器官用薬20.3%、ウラリット等の代謝性医薬品16.4%、神経系及び感覚器官用薬10.2%、病原生物用薬6.6%、腫瘍用薬3.1%、その他の医薬品12.0%となっています。

(d) 研究開発

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受け、当社と九州大学の共同研究で進めている神経障害性疼痛治療薬候補「NC-2600」（P2X4受容体アンタゴニスト）においては、本年6月に国内においてフェーズ試験を開始いたしました。このNC-2600は世界で初めてグリア細胞をターゲットにした疼痛治療薬候補であり、幅広い神経障害性疼痛に対する効果が期待されています。

また、当社と北里大学、筑波大学、国立精神・神経医療研究センターの4者による共同研究で開発を進めている「NC-2800」（オピオイド受容体アゴニスト）についても、平成27年10月に新規の作用機序に基づく抗うつ・抗不安薬としてAMEDの産学連携医療イノベーション創出プログラム（ACT-M）に採択されており、非臨床試験を実施中です。

当社グループの注力領域である高尿酸血症の治療薬として開発を進めている尿酸降下薬「NC-2500」（キサンチンオキシドリダクターゼ阻害薬）については、一度目のフェーズ試験の結果から製剤を改良した方がより治療上のメリットが得られると判断し、改良製剤を使ったフェーズ試験を開始いたしました。さらに、NC-2500に続く新規の尿酸降下薬「NC-2700」（URAT1阻害薬）については、当第2四半期連結累計期間から非臨床試験を実施しております。

(e) 生産体制

グループ全体の生産能力増強及び製造コスト削減を目的とするベトナムでの製造工場建設につきましては、予定通り本年3月に着工し、順調に建設が進んでおります。また、当第2四半期連結累計期間に事業遂行の中心となる現地人材の採用を行いました。2018年の生産開始に向けたスケジュールは着々と進んでいるところです。

また、今後の新発売品目やジェネリック医薬品需要増加に対応するため、子会社である日本薬品工業株式会社つくば工場3号棟において設備の追加実装を行い、国内の生産能力増強も図っております。

2) 臨床検査薬

主力製品・自社開発のアレルギー検査薬「オリトンIgE『ケミファ』」及び測定機器の「DiaPack3000」とヘモグロビンA1c検査薬及び測定装置「HLC-723G11」は、ともに近年注力してきた新規施設への設置効果があらわれ好調に推移しており、臨床検査薬全体の売上高は前年同期を上回る結果となりました。

以上により、医薬品事業全体の売上高は17,022百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は1,327百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

その他

主に受託試験事業、ヘルスケア事業及び不動産賃貸事業である「その他」の事業の業績は、受託試験事業の競争環境が厳しさを増していることなどから、売上高は493百万円（前年同期比6.5%減）となり、4百万円の営業損失（前年同期は14百万円の営業利益）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,515百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は1,323百万円（前年同期比1.5%減）、経常利益は1,147百万円（前年同期比12.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は822百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

(2) 財政状態

資産

流動資産は前期末に比べて638百万円減少し、26,739百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金の減少によるものです。

固定資産は前期末に比べて525百万円増加し、16,789百万円となりました。これは建物並びに機械装置の増加などによるものです。

この結果、総資産は前期末に比べて113百万円減少し、43,530百万円となりました。

負債

流動負債は前期末に比べて1,818百万円減少し、13,837百万円となりました。これは、1年内返済長期借入金及び仕入債務の減少などによるものです。

固定負債は前期末に比べて1,338百万円増加し、13,285百万円となりました。これは、主に長期借入金の増加によるものです。

この結果、負債合計は前期末に比べて479百万円減少し、27,122百万円となりました。

純資産

純資産合計は前期末に比べて366百万円増加し、16,407百万円となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物は、営業活動により1,113百万円増加いたしました。また投資活動においては1,392百万円の減少、財務活動においては171百万円の増加となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は6,956百万円（前年同期比17.1%増）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動による資金は仕入債務の減少及び法人税等の支払などがあったものの、主に税金等調整前四半期純利益の計上により、1,113百万円の増加（前年同期は193百万円の増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動による資金は主に固定資産の取得により、1,392百万円の減少（前年同期は267百万円の減少）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動による資金は長期借入金の返済及び配当金の支払があった一方で、主に長期借入金の調達により、171百万円の増加（前年同期は224百万円の増加）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務及び事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社が企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社の支配権の移転を伴う買付提案についての判断は、最終的には株主の皆様全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式の大量買付であっても、当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式

の大量買付の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。当社では、グループとして企業価値の向上・確保に努めておりますが、特に、当社の企業価値の源泉は)新薬メーカーならではの高品質なジェネリック医薬品開発力、安定供給(製造・販売)体制及び情報提供体制、)ウラリットを核にした高尿酸血症領域での専門知識、経験及びノウハウ、)開発コストの低減と開発スピードの向上を企図し探索機能に特化したベンチャー型創薬研究体制、及び)創業後65年をかけて培った医療関係者からの信頼です。当社株式の大量買付を行う者が、当社の財務及び事業の内容を理解するのはもちろんのこと、こうした当社の企業価値の源泉を理解し、これらを中長期的に確保し、向上させられるのでなければ、当社の企業価値・株主共同の利益は毀損されることになります。

当社としては、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

1) 中期経営計画による取組み

当社は、近年ますますスピードが増している経済環境や制度の変化にタイムリーに対応すべく、平成27年度より期間3ヶ年の中期経営計画を毎年ロールオーバーしております。この中期経営計画においては、当社が従前取り組んで参りました3つのミッション、)ジェネリック医薬品市場におけるプレゼンスの確立、)ウラリットを核として高尿酸血症領域でのフロントランナーを目指すこと、)自社開発創薬による業容拡大への更なる取り組みを継続・強化するとともに、これらの取組みの成果をベースに海外に展開することを掲げております。

まず、ジェネリック医薬品事業につきましては、新薬メーカーとしていち早くジェネリック医薬品事業に参入した当社のアドバンテージを活かしつつ、市場におけるプレゼンスを維持するためには、「量」よりも「質」を追求し、開発、製造、販売にわたるサプライチェーン全体を強化することが不可欠であると考えております。このような方針のもと、知財部門を含む開発体制の強化や、日本薬品工業つくば工場において全面免震構造を有する新製造棟建設を実施するとともに、現在ベトナムで製造工場の建設に着手しており、今後とも同事業の更なる高品質化、効率化を推進してまいります。また、営業面では、これまで同様にDPC病院を中心とした重点得意先に注力するとともに、平成28年4月の診療報酬制度改定により今後ジェネリック医薬品の普及が期待される出来高払いの病院や開業医への営業活動も強化してまいります。

次に、高尿酸血症領域での取組みに関しましては、尿アルカリ化剤による慢性腎臓病進展抑制等の臨床研究を支援し、これを販売実績の拡大に結び付けるべく取り組むとともに、現在フェーズ を実施している高尿酸血症治療薬候補「NC-2500」や新たな治療薬の研究開発にも着手してまいります。

最後に、創薬につきましては、神経障害性疼痛治療薬候補「NC-2600」や抗うつ剤・抗不安薬候補「NC-2800」等公的資金を獲得するような有望な研究テーマも複数出てまいりました。今後も、研究開発体制の強化・効率化を進めながら、自社創薬への投資を継続してまいります。

これらの成果を踏まえ、将来にわたる当社グループの持続的成長のために、ASEAN、中国を中心とする海外の事業基盤の強化にも取り組んでまいります。

当社は、これらのミッションに一貫して継続的に取り組むことが、国内外の医薬品業界を取り巻く環境や制度変更への対処を可能とし、当社の企業価値、すなわち、株主共同の利益を維持・拡大する最良の方策であると考えます。

2) コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、企業価値・株主共同の利益を確保し向上させるためには、経営組織と運営のあり方の適正化に常時努めることでコーポレート・ガバナンスを強化・充実し、また、株主の皆様、顧客、社会一般に対して一層の経営の透明性を高めると共に公正な経営を実現することを最優先の課題の一つとして位置付けております。その具体化の一端として、当社は、経営機能を「意思決定機能・監督機能」と「業務執行機能」とに分離し、前者を独立性の高い社外取締役を含む取締役(会)に、後者を執行役員(会議)に権限委譲する執行役員制度を導入するとともに、監査役会設置会社として独立性の高い社外監査役2名を含む監査役の監査により経営の透明性・公正性を高め、取締役会の意思決定の監視・監督機能の強化を図っております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための
取組みの概要

当社は、平成28年6月29日開催の第84回定時株主総会（以下、「本定時株主総会」といいます）において、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）について、平成19年に導入、平成22年及び平成25年に改定した内容を更新することを上程し、株主の皆様のご承認をいただきました（以下、更新後のプランを「本プラン」といいます）。本プランの内容の概要は次のとおりであります。

1) 目的

当社取締役会は、基本方針に定めるとおり、当社の企業価値・株主共同の利益に資さない当社株式の大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えています。本プランは、こうした不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値・株主共同の利益に反する大量買付を抑止するとともに、大量買付が行われる際に、当社取締役会が株主の皆様へ代替案を提案したり、もしくは株主の皆様がかかる大量買付に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保したり、又は株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としております。

2) 本プランの概要

(a) 本プランに係る手続の設定

本プランは、当社の株券等に対する買付等が行われる場合に、買付等を行う者（以下、「買付者等」といいます）に対し、事前に当該買付等に関する情報の提供を求め、当該買付等についての情報収集・検討等を行う時間を確保した上で、株主の皆様へ当社経営陣の計画や代替案等を提示し、又は、買付者等との交渉等を行うための手続を定めています。

(b) 新株予約権の無償割当ての利用

買付者等が本プランにおいて定められた手続に従うことなく買付等を行う等、当社の企業価値・株主共同の利益が害されるおそれがあると認められる場合には、当社は、買付者等による権利行使は認められないとの行使条件及び当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得する旨の取得条項が付された新株予約権（以下、「本新株予約権」といいます）を、その時点の当社を除く全ての株主の皆様に対して新株予約権無償割当ての方法（会社法第277条以降に規定されます）により割り当てます。

(c) 特別委員会の利用及び株主意思の確認

本プランにおいては、本新株予約権の無償割当ての実施、不実施又は取得等の判断について、取締役の恣意的判断を排するため、独立性のある社外取締役等から構成される特別委員会の客観的な判断を経るものとしております。

また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の場合には株主の皆様意思を確認するための株主総会を招集し（以下、かかる株主総会を「株主意思確認株主総会」といいます）、新株予約権無償割当ての実施に関する株主の皆様意思を確認することがあります。

(d) 本新株予約権の行使及び当社による本新株予約権の取得

本プランに従って本新株予約権の無償割当てがなされ、買付者等以外の株主の皆様により本新株予約権が行使された場合、又は当社による本新株予約権の取得と引換えに、買付者等以外の株主の皆様に対して当社株式が交付された場合、当該買付者等の有する当社株式の議決権割合は最大約50%まで希釈化される可能性があります。

(e) 情報開示

上記(a)ないし(d)の各手続の過程については、適宜株主の皆様に対して情報開示がなされ、その透明性を確保することとしております。

3) 本プランの有効期間、廃止

本プランの有効期間は、本定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。

ただし、有効期間の満了前であっても、()当社の株主総会において本定時株主総会決議による当社取締役会への委任を撤回する旨の決議が行われた場合、又は、()当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランは当該決議に従い廃止されるものとします。

4) 株主の皆様への影響

本新株予約権の無償割当て自体が行われていない場合には、株主の皆様へ直接的な影響が生じることはありません。他方、本プランが発動され新株予約権行使の手続を行わなければ、その保有する株式が希釈化される場合があります（ただし、当社が当社株式を対価として新株予約権の取得の手続を行った場合、保有する当社株式全体の価値の希釈化は原則として生じません）。

上記取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

1) 基本方針の実現に資する特別な取組みについて

将来にわたる当社グループの持続的成長のため3つのミッションを中心とした各種取組み、コーポレート・ガバナンスの強化の各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。

したがって、当該取組みは基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

2) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みについて

本プランは、企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として導入されたものであり、基本方針に沿うものです。

また、本プランは、株主の承認を得た上で更新されており、一定の場合に本プランの発動の是非について株主意思確認株主総会において株主の皆様の意思を確認することができることや、有効期間が約3年間と定められた上、株主総会又は取締役会によりいつでも廃止することができることとされているなど株主意思を重視するものであること、買収防衛策に関する公の指針の要件を完全に充足していること、独立性のある社外取締役等のみから構成される特別委員会の判断の重視や情報開示の仕組みが確保されていること、合理的な客観的発動要件が設定されていること等により、その公正性・客観性が担保されており、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものといえます。

したがって、当該取組みは基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の医薬品事業における研究開発費の総額は942百万円であります。

(注) 「その他」の事業では、研究開発活動を行っていないため記載しておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	154,000,000
計	154,000,000

(注) 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は138,600,000株減少し、15,400,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日 現在発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	42,614,205	4,261,420	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	42,614,205	4,261,420		

(注) 1 提出日現在の発行数には、平成28年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。
 2 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で10株を1株に株式併合いたしました。これにより株式数は38,352,785株減少し、発行済株式総数は4,261,420株となっております。
 3 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で単元株式数は1,000株から100株に変更となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		42,614		4,304		

(注) 平成28年10月1日をもって10株を1株に株式併合し、これに伴い発行済株式総数が38,352千株減少しております。

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ジャパンソファルシム株式会社	東京都千代田区岩本町二丁目2番3号	7,125	16.72
豊島薬品株式会社	東京都千代田区岩本町二丁目2番3号	2,421	5.68
日本調剤株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	1,926	4.51
今村 均	千葉県東金市	1,510	3.54
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	1,440	3.37
山口 一城	東京都港区	1,011	2.37
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	772	1.81
株式会社東京都民銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都港区六本木二丁目3番11号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイ ランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	757	1.77
フクダ電子株式会社	東京都文京区本郷三丁目39番4号	735	1.72
日本ケミファ従業員持株会	東京都千代田区岩本町二丁目2番3号	658	1.54
計		18,357	43.07

(注) 上記のほか当社所有の自己株式3,121千株(7.32%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,121,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,161,000	39,161	
単元未満株式	普通株式 332,205		
発行済株式総数	42,614,205		
総株主の議決権		39,161	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式548株が含まれております。

3 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で単元株式数は1,000株から100株に変更となっております。

4 平成28年6月29日開催の定時株主総会決議により、平成28年10月1日付で10株を1株に株式併合いたしました。これにより株式数は38,352,785株減少し、発行済株式総数は4,261,420株となっております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本ケミファ株式会社	東京都千代田区岩本町 二丁目2番3号	3,121,000		3,121,000	7.32
計		3,121,000		3,121,000	7.32

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,223	7,011
受取手形及び売掛金	14,241	13,701
商品及び製品	3,652	3,471
仕掛品	679	751
原材料及び貯蔵品	843	949
繰延税金資産	569	557
その他	168	298
流動資産合計	27,378	26,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,531	5,124
機械装置及び運搬具（純額）	1,735	2,076
工具、器具及び備品（純額）	271	253
土地	5,448	5,448
リース資産（純額）	241	243
建設仮勘定	688	423
有形固定資産合計	12,917	13,570
無形固定資産		
リース資産	19	20
ソフトウェア	23	27
電話加入権	20	20
無形固定資産合計	63	68
投資その他の資産		
投資有価証券	2,302	2,322
長期貸付金	3	3
長期前払費用	312	270
敷金及び保証金	94	95
繰延税金資産	268	146
その他	358	369
貸倒引当金	57	57
投資その他の資産合計	3,282	3,149
固定資産合計	16,263	16,789
繰延資産		
社債発行費	2	2
繰延資産合計	2	2
資産合計	43,644	43,530

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,087	1,933
電子記録債務	5,121	4,461
短期借入金	500	640
1年内返済予定の長期借入金	3,559	2,545
リース債務	128	114
未払金	65	49
未払法人税等	282	295
未払消費税等	210	101
未払費用	2,482	2,540
預り金	67	76
返品調整引当金	2	2
販売促進引当金	418	419
その他	728	657
流動負債合計	15,655	13,837
固定負債		
社債	200	200
長期借入金	8,739	10,256
リース債務	215	223
役員退職慰労引当金	374	390
退職給付に係る負債	1,162	1,035
受入敷金保証金	9	9
繰延税金負債	75	-
再評価に係る繰延税金負債	1,168	1,168
固定負債合計	11,946	13,285
負債合計	27,602	27,122
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,304	4,304
資本剰余金	1,305	1,305
利益剰余金	9,042	9,470
自己株式	1,580	1,581
株主資本合計	13,072	13,499
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	748	758
土地再評価差額金	2,633	2,633
為替換算調整勘定	7	137
退職給付に係る調整累計額	413	356
その他の包括利益累計額合計	2,960	2,898
新株予約権	8	9
純資産合計	16,041	16,407
負債純資産合計	43,644	43,530

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	17,428	17,515
売上原価	9,305	9,586
売上総利益	8,123	7,929
返品調整引当金戻入額	0	0
差引売上総利益	8,123	7,929
販売費及び一般管理費	1 6,779	1 6,606
営業利益	1,344	1,323
営業外収益		
受取利息	8	0
受取配当金	25	24
固定資産賃貸料	8	8
持分法による投資利益	7	7
保険配当金	-	2
その他	10	29
営業外収益合計	61	73
営業外費用		
支払利息	75	72
為替差損	1	158
支払手数料	4	3
その他	11	15
営業外費用合計	92	249
経常利益	1,312	1,147
税金等調整前四半期純利益	1,312	1,147
法人税、住民税及び事業税	339	295
法人税等調整額	95	29
法人税等合計	434	324
四半期純利益	878	822
非支配株主に帰属する四半期純損失()	0	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	878	822

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	878	822
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	9
繰延ヘッジ損益	0	-
土地再評価差額金	3	-
為替換算調整勘定	0	129
退職給付に係る調整額	2	57
その他の包括利益合計	53	62
四半期包括利益	824	760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	824	760
非支配株主に係る四半期包括利益	0	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,312	1,147
減価償却費	573	521
社債発行費償却	0	0
のれん償却額	21	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	-
販売促進引当金の増減額(は減少)	2	1
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	15	15
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	78	69
受取利息及び受取配当金	34	24
支払利息	75	72
為替差損益(は益)	-	158
売上債権の増減額(は増加)	944	539
たな卸資産の増減額(は増加)	541	3
その他の流動資産の増減額(は増加)	51	131
仕入債務の増減額(は減少)	146	814
その他の流動負債の増減額(は減少)	109	130
未払消費税等の増減額(は減少)	351	104
長期前払費用の増減額(は増加)	11	1
その他	5	14
小計	1,002	1,462
利息及び配当金の受取額	38	29
利息の支払額	75	73
法人税等の支払額	771	305
営業活動によるキャッシュ・フロー	193	1,113
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	61	63
定期預金の払戻による収入	96	96
固定資産の取得による支出	286	1,313
投資有価証券の取得による支出	2	2
差入保証金の回収による収入	2	0
為替予約の決済による収支(純額)	-	95
その他の支出	11	10
その他	4	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	267	1,392
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	204	140
長期借入れによる収入	2,400	2,700
長期借入金の返済による支出	1,211	2,196
社債の償還による支出	95	-
配当金の支払額	403	394
その他	669	77
財務活動によるキャッシュ・フロー	224	171
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	71
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	150	179
現金及び現金同等物の期首残高	5,791	7,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 5,942	1 6,956

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
<p>(会計方針の変更) (減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)</p> <p>当社及び国内連結子会社は法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
<p>(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)</p> <p>「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。</p>
<p>(連結納税制度の適用)</p> <p>当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から当社を連結納税親会社とした連結納税制度を適用しております。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当第2四半期連結会計期間末及び前連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
貸出コミットメントの総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高		
差引額	3,000百万円	3,000百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
広告宣伝費	101百万円	66百万円
販売促進費	2,131 "	1,945 "
旅費及び交通費	266 "	249 "
給料	1,698 "	1,732 "
退職給付費用	76 "	96 "
支払手数料	478 "	446 "
研究開発費	918 "	942 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金	6,696百万円	7,011百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	754 "	54 "
現金及び現金同等物	5,942百万円	6,956百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	404	10.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
- 3 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年5月22日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議し、自己株式の取得を実施いたしました。主にこの結果により、当第2四半期連結累計期間において自己株式が592百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末における自己株式は1,577百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	394	10.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	16,901	527	17,428		17,428
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	57	68	68	
計	16,912	584	17,497	68	17,428
セグメント利益	1,329	14	1,344		1,344

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、安全性試験の受託等、ヘルスケア事業及び不動産賃貸事業を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	17,022	493	17,515		17,515
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	6	15	15	
計	17,031	499	17,531	15	17,515
セグメント利益又は損失()	1,327	4	1,323		1,323

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、安全性試験の受託等、ヘルスケア事業及び不動産賃貸事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	222円57銭	210円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	878	822
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	878	822
普通株式の期中平均株式数(株)	3,948,486	3,910,852
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	222円40銭	210円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	2,992	787
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

(重要な自己株式の取得)

当社は、平成28年10月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

- 1 理由：資本効率及び株主還元の更なる向上を図るため
- 2 取得する株式の種類：普通株式
- 3 取得する株式の数：100,000株(上限)
- 4 株式取得価額の総額：500百万円(上限)
- 5 自己株式取得の期間：平成28年11月1日から平成29年3月31日まで

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月4日

日本ケミファ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	矢野浩一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	森田浩之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ケミファ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ケミファ株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。